

## 学会誌の創刊にあたって

応用動物行動学会

会長 佐藤 衆介

2003年度の総会において、「一般講演・学会誌の日本家畜管理学会との共同化」を承認して頂きました。そして、2004年度からは一般講演会を日本家畜管理学会と共催して参りました。さらに2004年度の総会において、「Animal Behavior and Management」という雑誌を2学会のOfficial Journalとして2005年度から発行することを決定して戴きました。それを受け、日本家畜管理学会の庶務幹事である長谷川信美氏（宮崎大学）並びに当学会の学会誌担当幹事である近藤誠司副会長（北海道大学）のご尽力により、ここに創刊号が刊行されることとなりましたことを大変うれしく思っております。

応用動物行動学会設立の基盤は、1984年以来日本畜産学会大会の前後に行なわれてきた「家畜行動に関する小集会」というシンポジウム企画集団であります。そして、そこで行なわれたシンポジウムは全て「日本家畜管理学会誌」に投稿されてきました（シンポジウムの全記録は、応用動物行動学会より2003年「応用動物行動学の黎明」として製本化）。2005年には応用動物行動学会が中心となって、第39回国際応用動物行動学会議を我が国に誘致しましたが、共同主催団体として「日本家畜管理学会」、「(社)日本畜産学会」並びに「日本学術会議」に参加して頂きました。すなわち、日本家畜管理学会と応用動物行動学会とは切っても切れないベストパートナー同士であると言えます。

家畜管理学は、家畜自体に直接関わる飼育管理、家畜を取り巻く飼育環境管理、排泄物管理等に関する学理からなっています。一方、応用動物行動学は、ヒトと係わる動物である産業動物、伴侶（愛玩）動物、実験動物、展示動物、野生動物の行動と管理に関する基礎的・応用的研究からなっています。このように、家畜管理学は動物飼育に関する垂直的広がりをも所掌し、応用動物行動学は広義の動物飼育に関する水平的広がりをも所掌していると言え、それらの交差面は極めて広く、交差面での交流は両者の道の拡幅に必ず通じると信じて疑いません。本誌の発行が、両者の発展の契機になることを大いに期待しております。

応用動物行動学会では、本会誌を印刷物としてではなく、電子ジャーナル（国立情報学研究所の電子図書館サービス）として配信することを目指しています。初めは印刷物として配信しますが、準備が整い次第電子ジャーナル化に持って行き、会費の抑制を保持していきたいと考えております。しかし、中身はあくまでも普遍性の高い高品位論文を目指し、ここに皆様からの積極的な投稿を期待すると共に、レフリーの一層の充実を期待したいと思います。